



アトリエで制作中のパラモ氏。

ゴンサロ・パラモ

Gonzalo Páramo

- 1971 ブルゴス生まれ
- 1999-00 カンタベリーセント大学
芸術学修士課程(イギリス)
- 1992-98 サラマンカ大学 芸術学学士(スペイン)



〈奨学金・レジデンシープログラム〉

- 2013 レジデンスアーティストクレタ島(ギリシャ)
- 2012 Dar Al Hekma College にて客員教授
ノジダ(サウジアラビア)
- 2010 イースト・セントラル大学にて客員教授/セントルイス(アメリカ)
ウェブスター大学にて客員教授/セントルイス(アメリカ)
- 2002 ウェルカム・トラスト財団/ロンドン(イギリス)
- 2000, 02 グラスゴー芸術大学/グラスゴー(イギリス)

〈展覧会歴〉

- 2016 個展「Paperstries」Casa Junco / バレンシア(スペイン)
- 2014 個展「神秘」ディアス・カネハ財団美術館/バレンシア(スペイン)
- 2012 個展 Naqsh Studio Gallery / ノジダ(サウジアラビア)
- 2011 グループ展 ディアス・カネハ財団美術館/バレンシア(スペイン)
- 2010 グループ展「新しい人間」スペイン銀行・ドゥエロ銀行/バレンシア(スペイン)
- グループ展 Three Sinks Gallery / セントルイス(アメリカ)
- 個展 アートセンター/ワシントン(アメリカ)
- 個展 イーストセントラルカレッジ/セントルイス(アメリカ)
- 個展 Casa Junco / バレンシア(スペイン)
- 個展 Nuestra Señora de Clemencia 旧病院展示センター/バレンシア(スペイン)
- 2009 個展 Tejada 修道院/クエンカ(スペイン)
- 2008 個展 カスティアとレオン理事会のウナム/展示場/サラマンカ(スペイン)
- 2007 個展「書かれた土地」ドゥエロ銀行/バレンシア(スペイン)
- 個展「バベル」メトロポリ財団/アルコベンダス、マドリッド(スペイン)
- 2006 個展「連続執筆」カメロスギャララリー、アートコンサルティング
ノサラゴサ(スペイン)
- 2005 グループ展「詩と芸術」ギャラリー Hayes&George / シャーロット(アメリカ)
- グループ展「巡礼者の進歩」ギャラリー Hayes&George
ノシャーロット(アメリカ)
- 個展「執筆」ラムエラビジネスセンター/ラムエラ、サラゴサ(スペイン)
- グループ展「記念日のショー」ギャラリー Hayes&George
ノシャーロット(アメリカ)
- 2004 個展「カットスルー」ミュージズ 269 / ロンドン(イギリス)
- 2003 グループ展「4 プラス DNA に書き込み」ウェルカム・トラスト財団
ノロンドン(イギリス)
- 2002 個展「Ouroboros」ウェルカム・トラスト財団/ロンドン(イギリス)

〈作品コレクション〉

- ・大英博物館/ロンドン(イギリス)
- ・メトロポリ財団/アルコベンダス、マドリッド(スペイン)
- ・ウェルカム・トラスト財団/ロンドン(イギリス)
- 他/スペイン、イギリス、アメリカ、ニュージーランド、タイ、ドイツ、コロンビア、
日本、ギリシャ、パキスタン、インド、アラビアとオーストラリアの個人コレクター

ゴンサロ・パラモの作品に寄せて

アルフォンソ・デ・ラ・トーレ(美術評論家)

“ゴンサロ・パラモの作品は、現代美術シーンにおいて分類が難しい。

過去の偉大な画家たちと同様、彼の作家としての軌跡は、青年時代はともかく、教育や周囲の環境からの影響、調査研究、展示会歴など、批評家たちによってしきたりどおりの分析からは、到底見いだすことのできない座標に位置している。

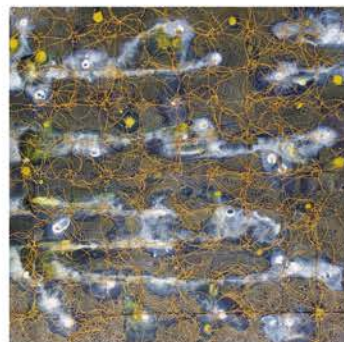
彼の作品に近づくためには、なによりもまず芸術世界の概念的なものを飛び越える無邪気さと、詩的要素とそれに対立する科学的協力無くしては成立しないものだとして理解することが必要である。また、芸術を理解するためにはスピリチュアルなトランス状態になることも一助となる。それは表現方法のひとつとしてだけでなく、不安定な内面世界に根をおろす生命線として必要なのだ。”

“彼の絵画を表現するにあたり、多種多様な素材への情熱、とりわけさまざまな表情を持つ「紙」の優位性を挙げなければならない。

繰り返しエンボス加工された紙、インクや岩料によって変化をつけられた紙、作家が根気よく描いた細かい小波やひだは、泥炭に湿らせ、錬金術的に別の物質へと変化する——つまり、後の救済のため、作品を土中に埋め、変化させているのだ。画家のアトリエでは、それらに解説不可能な文字がいくつもの「層」を重ねて描かれる。従来の画家たちが根気よく影を描き表現しようとした三次元の世界を、酸化した墨と文字、そしてさまざまなインクの使用によって実現してきたのだ。”



“Paperstry IX.17” 2017、紙(300g)にミクストメディア、70x70 cm



“Paperstry V.17” 2017
紙(300g)にミクストメディア、100x150 cm



“Paperstry X.17” 2017
紙(300g)にミクストメディア、70x70 cm

後援：セルバンテス文化センター東京
Supported by: Instituto Cervantes Tokio

